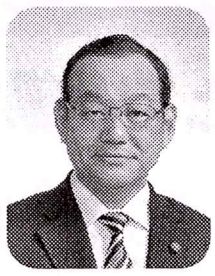
子ども医療費助成拡大（通院小6まで）条例

3/8 多賀城市議会本会議で全会一致可決

2月9日から始まった多賀城市議会第1回定例会最終日の3月8日、通院を中学3年生まで拡充する「子ども医療費助成拡大条例」（案）について、付託されていた文教厚生常任委員会から本会議に報告が行われました。同委員会の報告は「中学3年生までの原案を小学6年生までに修正する」というもの。この報告は全会一致で可決され、本年10月より、通院の助成が小学3年生から同6年生にまで拡充されることが、正式に決定しました。

◇　◇　◇

条例成立にあたり、藤原ますえい日本共産党多賀城市議団長は次の談話を発表しました。



一、子ども医療費拡充をめぐって紆余曲折はありましたが、結果として現状から一歩前進となったことを喜びたいと思います。

一、今回、自民・公明の市議らがとった態度には理解しがたいものがありました。12月議会では「せめて2016年4月から小6まで」という請願を否決。その理由は「中学3年生までではないから（不十分）」というものでした。12月議会に「中学3年生まで拡充」を内容とする条例案を提案したら、委員会に「小6まで」とする修正案を提出してきました。何を基準に賛成・反対をしているのか、鋭く問われました。真面目な議案審査を求めたいと思います。

一、「一歩前進」とはいえ、仙台市（小学3年生まで）に次いで低い助成であり、来年4月からさらなる拡充をめざし奮闘したいと思いますし、助成が全国最低（3歳未満）の県の姿勢を変えるために全力で頑張ります。

ご質問にお答えします

Q1. 新図書館は自由に写真撮影できるのですか？

先週の『多賀城民報』（No.1047）2面に、市教委が「新図書館の写真撮影は禁止しない」旨答弁したとありました。自由に撮影できると言うことでしょうか？。

A1. 館長の許可制ということです。

図書館の写真撮影は、これまでも館長の許可が必要で、利用者は撮影しない等の条件で認められていました。同様の措置にするということです。

Q2. CCCが認めないということは？

CCCが恣意的に認めないということはありえませんか？。

A2. あくまでも市立図書館ですのでないと思います。

CCCに指定管理しているとは言っても、あくまでも市立図書館です。正規の手続きを踏んだ場合、それは無いと思います。もしそんなことがあったら、「議会答弁に反する」と主張してみてください。

（1面より続く）

【佐藤恵子市議】こうした現状を直視し、工場誘致一辺倒、駅前開発中心だけの施策でなく、地域に根差し、地元の雇用に貢献している市内の中小企業、業者へのきめ細かな支援をおこない、活性化をはかっていくことが大切です。たとえば、新店舗出店に助成制度がありますが、中心市街地だけに限定されています。震災で大きな被害をうけた市内全地域を対象に改善していくこと。また、防潮堤建設など遅れている仙台港工業地域の復旧・整備の促進も重要です。宮城県は国の被災者雇用開発助成金の対象からはずされました。復活させていく取り組みも大事です。

党市議団は、引き続き、復旧・復興、被災者支援に力をいれて取り組みます。

※資料等　「多賀城市平成26年度被災者現況調査」「多賀城市被災者事業の現状と今後の見込み」「経済センサス・平成21年、同平成26年」

子ども医療費助成への国のペナルティーはやめよ

議会最終日の3月8日、現在、自治体の子ども医療費助成（現物給付）に対し国が行っているペナルティー措置をやめるよう求める意見書が全会一致で採択されました。日本共産党、公明党、新世紀クラブ、市民クラブ9名の提出者を代表し戸津川晴美市議が提案をしました。自民党は議運で「反対」を表明し提出者に加わりませんでしたが、本会議では反対しませんでした。

多賀城歴史歳時記 9

東日本大震災から5年

3月5日は虫も地中から這い出すという二十四節気の「啓蟄」。季節は間違いなく移ろいでいるのだが、一直線にはいかない。「三寒四温」は冬の季語だが、3月も寒暖が続く。5年前の3月11日も「昭和8年3月3日」ほどでないにしろ霙（みぞれ）が降る寒い日であった▼貞観11年5月26日（現在暦869年7月13日）に陸奥国で大きな地震があり、第三期多賀城の築地が崩れ建物が倒壊。津波は城下に押し寄せ千人が死亡したことは、歴史・考古学者とファンの中ではよく知られた事実であった。残念だったことはそれが市民レベルにまでになっていなかったこと。私自身も、「津波は川を遡ったにちがいない」程度に考えていた▼ところが津波は海岸線からどーっと壁となってやってきた。仙台港で働いていた近所の男性は言う。「車で必死に逃げた。ところが桜木の工場地帯まで来たとき、ミラーに黒い壁となって追いかけてくる津波が映った。これはだめだと車から飛び降り電柱によじ登った。しばらくしがみつき、津波がちょっと引いてから首までつかって家に帰った」▼私の大学の同級生（女性）は帰宅途中産業道路で被災。一昼夜丸太につかまり漂流、朝方民家の2階に引き上げられた。逃げ遅れ一晩ブロック塀にしがみついていた方もいる。事務所の大家さん、小学校PTA役員さんは子どもさんを失った。私の親戚では宮古市田老で孫とともに従弟が亡くなった。だが、被災しつつも多くの知人・友人、親戚が助かったことは救いだった▼ぼろぼろ涙したことがある。3月13日午後、宮内を歩いた。津波は2階の床上30センチに達していた。あるアパートの1階のドアに大きく泥で書かれた伝言があった。「○○、○○ちゃん宅でマツ」。「そうだ、ここには一昨日まで平穏な暮らしがあったんだ。あー、ここの方は無事だったんだ」と思ったその瞬間、ぼろぼろと涙が…。気仙沼市の高校生・畠山海香さんの歌「死に顔を『気持ち悪い』と思ったよ。ごめんじいちゃんひどい孫だね」（『ドキュメント震災三十一文字』所収）に出会った時もだった。大好きだったじいちゃんの死体に「気持ち悪い」と思った自分が許せないのだ。肉親を亡くした家族の心のキズを思った▼被災者の方に元気をいただいたこともある。「藤原さん。災害は悪いばかりでもない。これまで隣近所の人たちとさっぱり話する機会もなかったが、絆が深まった。強がりじゃないよ…」と明月の方。全国から応援物資が届けられ、遠く九州から多賀城に応援に駆け付けてくれた。感謝感謝である。怒りが収まらないのは原発事故を起こし責任を取らない東電と政府。津波だけだったらこんなに復興が遅れることはなかったろう。これで原発再稼働などとんでもない。